

# 2023 10

## 「やさしさ」

次回作『大好き～奈緒ちゃんとお母さんの50年～』の製作・上映支援カンパが、少しずつ増えています。額の多少にかかわらず、とてもありがたく、嬉しい。

カンパの額に応じて返礼として、パンフレットやDVDや、DVD-boxを差し上げることにしているのですが、「返礼の品は遠慮します」と言う方や「礼状も郵送料と手間が大変だろうから要りません」と言う方が結構います。名前を公表しないでほしい、と言う方もいる。

要は、見返りを求めているわけではない...ということでしょうか？ その多くは見ず知らずの方々です。住所も明かさず、御礼状の書きようも無い方もいます。

メジャーな人気監督でもない、私のようなドキュメンタリーの創り手の、まだ未完成の作品へのカンパですから、もう「有難い」としか言いようがない。

私が逆の立場だったら、そんな無償の行為が出来るだろうか...と考えてしまう。

もちろん、私が41年間自主製作で映画を撮り続けたのも、見返りを求めたわけではない。無償の行為と言えば、そうだろうけど、自分が創りたいと思う作品へのチャレンジだし、その結果が一本の映画として遺ることは、映像の創り手である私にとっては、何ものにも代え難い喜びだから。

「世のため人のため...」という立派な考えで創ってきたわけではないし、強いて言えば、奈緒ちゃん一家四人に観てもらいたい、という思いが撮り始めた頃にあって、あとはほとんど自分のために取り続けてきた映画だからね。

言えば、自分のことしか考えていない自分を自覚すればする程、支援してくれる方々の心根の「やさしさ」のようなものに触れ、申し訳ないという気持ちになってしまうんだ。

時々、私の映画を観た人から、作品に監督の「やさしさ」を感じた...というようなコメントをもらおうと、消え入りたいような気持ちになる。

だって、自分のことばかり考えているワガママな奴で、「やさしさ」から一番遠い存在だと思ってるから。

でも、「やさしさ」のチャンピオンのような、奈緒ちゃんをはじめ、私の映画に登場する一人ひとは、みんなそれぞれの「やさしさ」を生きている人ばかりなのだと思う。監督ではなく、映画に出ている人が「やさしい」んだ。

きっと自分に無いものを求めているんだ。「やさしい人」はいいなあ、と思って撮ってるからね。自分も、「やさしく」なれたらなあとも思いながら...

で今回は、映画に登場している人だけでなく、映画を観てくれる、応援してくれる一人ひとりの「やさしさ」が、たんと集まって、製作・上映支援の輪が大きく広がりがつつある。

そして、迷いながらも、カンパ活動に取り組んでヨカッタと思えるようになった。友人・知人や見ず知らずの一人ひとりの、「やさしさ」に触れることが出来たから。

キレイゴトに聞こえるかもしれないけど、本当にそう思ってる。

「やさしさ」なんてちょっと気恥ずかしい言葉だけど、次回作『大好き』は「やさしさ」が原動力となって生まれ出る映画になる。

きっと映画を観た人々にも「やさしさ」が空気感染するに違いない。

「やさしくなあと」って  
言わなくちゃ！ ねえ！！（西村奈緒）

伊勢 真一

カ  
ン  
ト  
ク  
の  
つ  
ぶ  
や  
き

二〇二三年十月